

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	水明インターネット句会（選句・句評） 令和3年9月
月を京子	るみこ 粉雪	凡庸			万美	修 芳春 稀香	はるみ			京子	みえこ		静香	道を 芳春	
糠床の味引き締まる九月かな 糠に漬けてあるネタの事でしようね。生活詠うかな女好みかと。現代でも九月は新学期、企業決算と引き締まる。	さざめきを波間に残す春の宵 感じる余韻が良い。人を想うさざめきでしょうか。ロマンチック。	呼び出しのなお神さびて秋相撲 「神さびて」の表現が秀逸。	宅配の黒き葡萄や誕生日	秋暑し電池切れめく影落とす	秋薺雨箱根八里の石畳 長雨の旧街道、趣があります。	新蕎麦やふるさと語る老店主 新蕎麦と郷愁の取り合わせが見事。老店主が良い。深まり行く秋と人の温もりを感じる。老店主との蕎麦談義も聞こえてきそう。	朋来る禁を破りて新酒かな 中七が今の季節にぴつたり。新種が効いている。	父と母と墓掃除や秋彼岸	梨ひとつ嵐の夜の怪電話	城壁の真上に掛る月の眉 月の眉は「剣の形」「女の眉」城壁く戦いとの取り合わせが絶妙。	少子化の国にたおやか乱れ萩 「たおやか乱れ萩」の表現が好き。	黒々と葡萄の葉陰今日の月	大和路や佐保姫手を焼く稻雀 佐保姫手を焼くが面白い。	代休の曇りのち雨銀木屋 銀木屋との取り合わせの妙。金木屋でなく銀木屋に曇天の休日気分が感じられる。	
本橋稀香	持永喜夫	岡田芳春	木村るみ子	野田静香	日高道を	小林京子	反町修	秋谷信一	古賀由美子	村杉清吉	青木鶴城	奥山粉雪	井口俊晴	網野月を	

水明インターネット句会（選句・句評）																令和3年9月
30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16		
信一	亮一	道を 鶴城 萬蝶 俊晴	由美子	由美子 亮一 芳春	喜夫 万美	静香 月を	京子 粉雪		萬蝶 はるみ 俊晴 みえこ	修 信一	るみこ	朝香	静香 鶴城 はるみ			
街角の焼栗の香や巴里想ふ 焼き栗の匂いからパリを想うユニークさ。	曼珠沙華ランナーよぎる沼辺かな 曼殊沙華の赤にランナーの赤いウェアが浮かび上がる。曼殊沙華の畔を駆け抜ける様子が良い。	蓑虫やたまたま人に生まれ来て 曼殊沙華の赤にランナーの赤いウェアが浮かび上がる。曼殊沙華の畔を駆け抜ける様子が良い。	胡弓の音踊り手誘う風の盆 殻にこもった蓑虫を羨んでいるのか。蓑虫の幹旋、全体のバランスが良い。もしかすると蓑虫の方が幸せ？生は選べないから。	旧友の終活話にぐり酒 年老いて来るとしみじみ染みる句。濁り酒のおりに人生の積み重ねの投影。終活話には濁り酒が良い。清酒にはない味わい。	月影を纏ひて山や眠りつく 月影を長く纏う表現が秀逸。晩秋の静謐な夜空に煌々と月が光り山が横たえている気がする。	ウイルスに食欲ありや秋の空 発想が素晴らしい。取り合わせの妙。	あの夜の躰きふつと黒葡萄 やられた。秋はウイスキー片手にこれ。因みに私はボアロ派。コロナ時そここんな素敵な旅が紙の上で！	地球には外面ばかり見せる月 月よ、お前もか！人も月も距離が大事。どこかの旦那様みたいで面白い。裏側が見えないことを外面ばかりと上手にとらえた。月の表面しか見てない自分自身を考えさせられる。	衣被おしゃべり尽きぬ三姉妹 季語の幹旋が良い。ほのぼのとした姉妹関係が彷彿。	名画座に老優の影星月夜 名画座、老優、星月夜の取り合わせが良い。	あの雲に飛び降りんとや鞆鞆こぐ 私の気持ちを代弁しているようです。	秋高し流るる雲へ指てつぼう 秋高しと指てつぼうの対比が良い。やんちゃな子供のころに浸れる。	大人だけの子供祭りや空騒ぎ 秋高しと指てつぼうの対比が良い。やんちゃな子供のころに浸れる。	丹羽凡庸	安藤みえこ	
反町 修	秋谷 信一	古賀 由美子	村杉 清吉	青木 鶴城	奥山 粉雪	井口 俊晴	網野 月を	正木 萬蝶	竹内 万美	後記 朝香	元田 亮一	河野 はるみ	安藤みえこ	丹羽凡庸		

水明インターネット句会（選句・句評）																	令和3年9月										
45	44		43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31												
	信一 道を香 清吉 稀香		萬蝶 亮一 粉雪 晴庸	万美	由美子	清吉		喜夫	鶴城 清吉 るみこ		喜夫	修	朝香	月を みえこ													
	黒葡萄ネイルの取り合わせが抜群。金曜日に想像力を駆り立てられる。週末のほつとした気分と季語がよい。大人の雰囲気伝わる。一週間のご褒美に黒葡萄でのリラックスタイム、上手です。		黒葡萄ネイルを落とす金曜日	月齢を犬に教える散歩道	無季だと思いが期間がある。犬は話し相手に良い。楽しげな散歩。語りかける姿に孤独なしかし充実した日常が見える。ほほえましい。語 思わず笑ってしまった。	片隅をひそと飾るや杜鵑草	日差しが届かない庭の隅に咲く白い花が光っているよう。	竹竿で小川跳び越し秋となす	明るく秋を迎えられそう。	新ばしり父の十八番の黒田節	父子のつながりが季語によって活かされている。	けんかして折って畳みし秋日傘	守宮の子すくうて逃がす妻の素手	すくうての表現がやさしさに満ちている。	散り敷ひて金木犀の宇宙なる	金木犀で埋め尽くされた状況を宇宙観と表現した。光景の表現に感心。情景に広がりを感じる。	秋高く待ち侘ぶ恋を運び去り	大関の背なに土あり野分後	朝稽古後の汗の表現が良い。	深き闇逝く友の星流れをり	中七、下五の措辞が詩的。	イントロの長き曲あり秋灯下	秋の夜長を楽しんでいる様子。	今朝の秋無声映画の下駄の音	下駄の音が良く見つけられました。風の音と無声映画に下駄の音を感じる。	歩きスマホ金木犀の散りて知る	
	正木萬蝶		竹内万美	後記朝香	元田亮一	河野はるみ	安藤みえこ	丹羽凡庸	本橋稀香	持永喜夫	岡田芳春	木村るみ子	野田静香	日高道を	小林京子												